

# 8月の農作業

平成22年8月10日  
J A テ ラ ル 越 前  
奥越農林総合事務所

## 今月のポイント

- ★ 間断通水の励行
- ★ 病害虫防除の徹底  
(穂いもち・カメムシ・イネアザミウマ)
- ★ 早生の適期刈り取り
- ★ そばの播種作業
- ★ ナス・ネギ・ミディトマト・ほうれん草
- ★ 菊・シンテツポウユリの収穫
- ★ 花卉の病害虫防除

## 1. 今後の気象予想 (新潟地方気象台)

北陸地方 1か月予報

〈7月31日から8月30日までの天候見通し〉

### 〈特に注意を要する事項〉

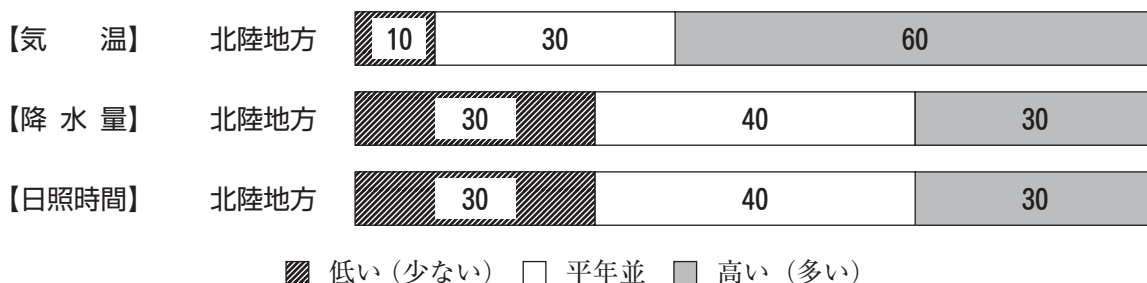
1週目から2週目にかけて、気温が平年よりかなり高くなる時期があるでしょう。農作物の管理や健康管理等に注意してください。

### 〈予想される向こう1か月の天候〉

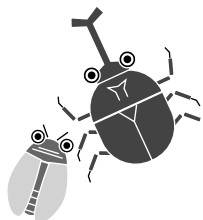
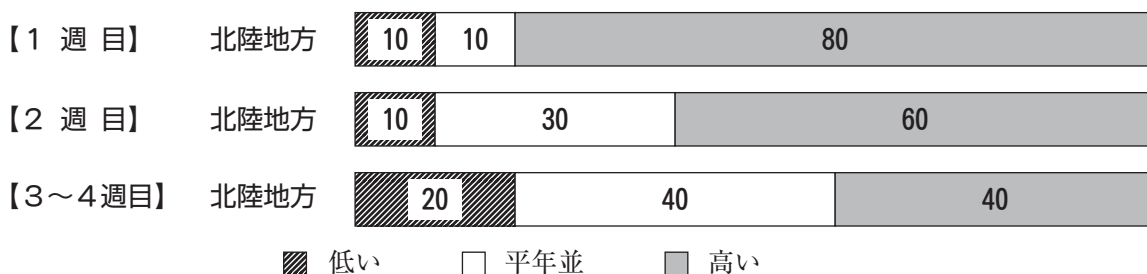
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に晴れの日が多いですが、一時気温のぐずつく時期があるでしょう。向こう1か月の気温は高い確率60%です。週別の気温は、1週目は高い確率は80%、2週目は高い確率60%、3〜4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

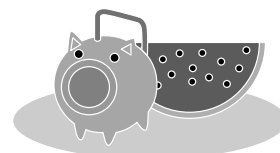
### 〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉



### 〈気温経過の各階級の確率(%)〉



〈予報の対象期間〉	
1 月	7月31日(土) ~ 8月30日(月)
1 週目	7月31日(土) ~ 8月6日(金)
2 週目	8月7日(土) ~ 8月13日(金)
3〜4週目	8月14日(土) ~ 8月27日(金)



# 北陸地方3か月予報

〈8月から10月までの  
天候見通し〉

〈予想される  
向こう3か月の天候〉

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

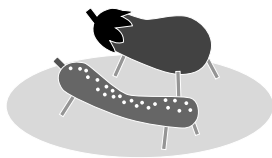
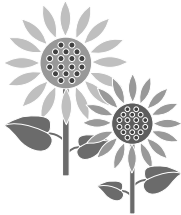
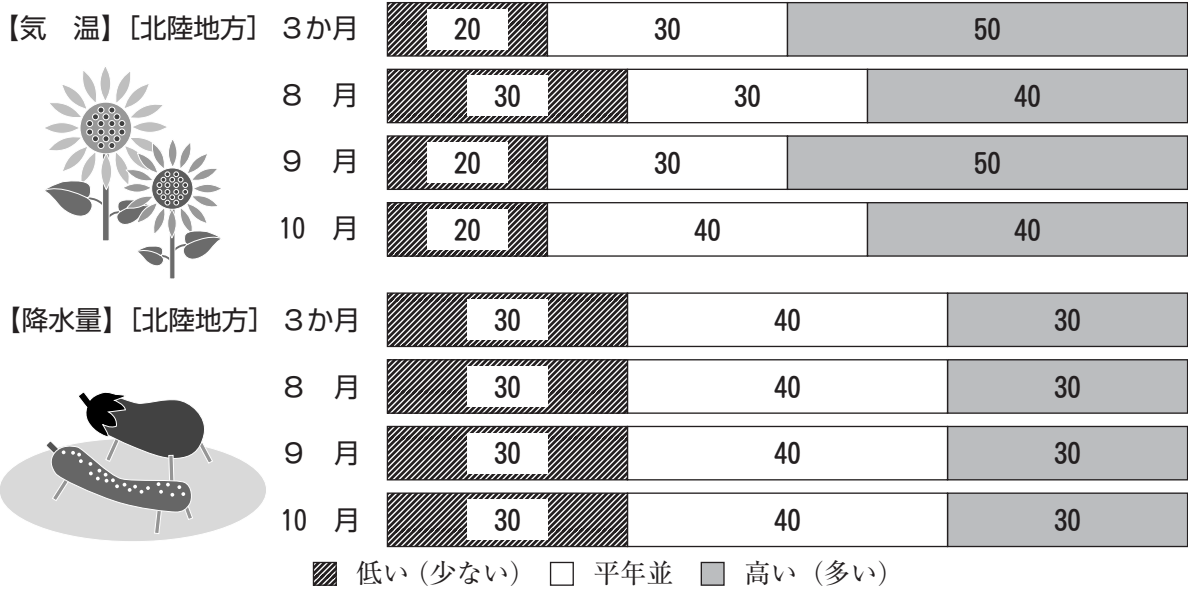
この期間の平均気温は高い確率50%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。残暑の時期がある見込みです。気温は高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)〉



## 2、農作物対策

### 水稲

#### 水管理・病害虫防除の 管理徹底を...

今年の稲の生育は、日照不足で経過したもの、早生・中生とも草丈は平年並、茎数は平年よりやや少な目の状況ですが、圃場による差も見受けられます。

適期収穫期を判断する意味からも、出穂期を確認しておいてください。

今後は、水管理・病害虫防除に万全を期して良質米生産に努めましょう。

#### 病害虫防除

水稲カメムシ類の発生量が、平年の3倍以上となっております。斑点米の被害にならないよう、適期防除を心がけてください。降雨が続く場合でも、雨の止み間を見て防除を行ってください。

(散布後3時間内に降雨が無ければ薬剤散布効果あり)

### 水管理

1、登熟向上のため、3日以上湛水は避け、間断通水によって根を健全に保ち登熟歩合を高め、千粒重の向上を図りましょう。

2、台風やフェーン現象の時は水分の蒸散が激しく、登熟や品質が悪くなるので、湛水管理により水分補給を行ってください。また、褐変粉による茶米の発生防止のため、台風通過後は直ちに落水するとともに、ブラシ粉(収穫21日前まで)で防除してください。

3、早期落水は、胴割米・死米・腹白米等の発生原因となり、品質低下を招きますので、落水時期は、早生で5日前、中生で7日前を目安に間断通水に努めましょう。

※とくに一発肥料を使用した圃場では、土壌の水分不足により肥効が極端に低下しますので、前記の水管理を徹底してください。

#### 刈り取り予想

今年の稲の生育は、例年並〜や

や遅いことから、現在の刈り取り予想は五百万石の出穂期7月22日では8月27日前後からの刈り取り、コシヒカリでは出穂期8月4日では9月12日前後からの予想ですが、今後の天候および管理により変わりますので、注意してください。

### 適正な乾燥調整

良食味米生産の最後の仕上げです。過乾燥に注意し、水分14.5～15.0%に仕上げてください。また、籾高は検査規格から外れ、再調整となりますので、充分に吟味してください。

### ※水稲栽培日誌の 記帳提出について

早生品種………8月13日まで  
中・晩生品種……8月27日まで  
各支店まで提出してください。

## そ ば

そばは湿害に弱いので、排水を良くし碎土・整地に心がけ、初期生育の均一に努めましょう。

1、播種量 10アール当たり5kg  
(条播、散播とも)

2、元 肥

複合高度44を7kg/10kgまたは  
テラルのもとさん10kg/10a

3、播種時期〔基準〕

平坦地 8月15日から20日  
中山間地 8月10日から15日

4、発芽を促進させるため、播種後トラクターによるロータリーでかく拌し、ふく土します。

5、播種後は、畝間への入水をしないうでください。

## 里 芋

### 水 管 理

降雨が続く場合、長時間の滞水はさせないようにしましょう。晴天続きの時は、3～4日おきに夕方地温が下がった時に畝間灌水を行ってください。

※水による肥料吸収効果で生育や収量が大きく左右されます。

### 子ズイキ刈り込み

本葉7枚目以降より、子芋の栄

養成長が盛んになり、子ズイキが発生します。放置しておくとしらになり品質が落ちるので、2～3葉期までに必ず刈り込みを行います。

### 土 寄 せ

この時期より親芋の肥大が盛んになり、子芋の形成が始まるため、浅植えとなった所は日焼け芋など品質が悪くなるので、株元を中心に土寄せをしましょう。

### マルチの裾まくり

梅雨明け後、マルチの裾をまくり水分を蒸散させ、畝の空中湿度を保ちハダニの発生を抑えましょう。

## ネ ギ

・軟腐病が一部、発生しています。  
バイオキーパー水和剤（もしくはヨネポン水和剤）で発生予防に努めてください。

・アザミウマ類の多発圃場ではアルバリン顆粒、アグロスリン乳等で防除する。但し、使用農薬の収穫前日数・使用回数について

て確認すること。農薬としてカウントしないウインドスターも取り入れ、防除体系を行ってください。

・ぼやけた軟白ネギでは軟白部の確保をするために、ネギの隙間にも土入れしてください。

## ナ ス

〈灌水〉ツヤなし果が発生している圃場では、1日の中で地温が下がった頃に畝灌水を行ってください。ただし、長時間の溜水は避けるようにしてください。

〈病害虫〉チャノホコリダニが一部発生しています。コテツフロアブルで防除しましょう。

〈追肥〉8月は1週間おきに、9月に入れば10日前後で追肥する。

## 花 卉

## キ ク

7月の降雨により、べと病等の葉の病気が蔓延しています。病変

に侵された葉は早期に取り除いてください。

8月はお荷作業に追われ、病害虫防除がおろそかになりがちです。注意してください。また、8月後半（20日頃）には、暮れ植え用の苗作りもしなければなりません。計画的に作業しましょう。

## 6・7月咲きの管理

○切り残したキクの処理

収穫が終わった夏ギク圃場でも、除草や病害虫防除も行いましょう。また、切り残した花は放置せず、圃場外へ持ち出し、処分しましょう。病害虫の巣窟になってしまいます。

○古株の切り戻し作業

収穫の終わった古株が長く伸びているので、約3cm位残して、地際近くまで切り戻します。

○親株の追肥

花を切り終えた後、そのまま伸びていたり、切り戻しをしたりで、株も根もかなり弱っています。切り戻し作業が終わったら、すぐにOKIF1の300倍液で力をつけておきましょう。その後、すぐに苗作りのための肥料を施します。有

機べレ5kgまたは、そ菜3号2kg。

（いずれも畝30m当たり）

\*そ菜3号については、2kgを一度にやると、キクの根を痛める場合もあるので、2回に分けて施しましょう。

○土寄せ作業

新芽が出て、かなり伸びてきたら、新芽の付け根あたりまで土寄せをします。土をかけることで新芽の付け根から新しい根が出てきます。また、新芽の付け根を暗くすることで発根が促されます。

土の代わりにモミガラを、新芽の頭からかけて付け根あたりを暗くすることでも根が出てきます。ただし、モミガラで発根させると根は粗くなります。

○発蕾防止と伸長防止

土寄せした後、すぐにエスレルの200倍液を散布しておきましょう。エスレルを散布することで、発蕾防止・伸長防止にもなり、良苗作りにつながります

## 9月咲きの管理

○出蕾期に入り中輪ギクでは摘蕾作業を行います。早めの作業を心

かけてください。

○Bナイン（ホルモン剤・伸張抑制・800～1000倍）は、最も早い蕾が確認できた時と摘蕾時に1回ずつ散布します。

## 10月咲きの管理

○病害虫防除の徹底に努めます。

### 病害虫防除

管内ではすでにダニの発生が見受けられます。発生状況に応じた防除を行いましょう。

○ダニ

ダニは葉裏に生息していますので、防除はノズルを上向きで丁寧に散布します。

ダニは抵抗性がつきやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布します。

▼主な使用農薬

（卵・幼虫）

オサダンフロアブル・テデオ  
ン乳剤・ピラニカEW・ダニカット乳剤  
（卵・成虫）

カネマイトフロアブル（出蕾時に散布すると薬害の恐れあり）・マイ  
トコーネフロアブル・ビルク水和剤

○黒斑褐斑・灰色カビ病

▼主な使用農薬

ジマンダイセンフロアブル・ダ  
コニール1000・ベンレート水和剤・  
ゲッター水和剤など

○スリップス（アザミウマ類）

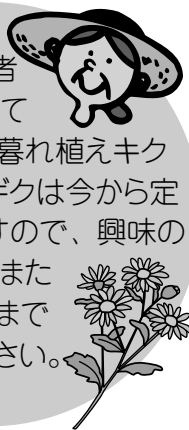
蕾の中にスリップスなどが入り  
ますと防除が困難になり品質が低  
下しますので、開花の早い品種か  
ら防除を徹底してください。

▼主な使用農薬

ジェイエース水溶剤・ハチハチ  
乳剤・コテツフロアブル・テルス  
ターフロアブル

## スプレーギク

○8月の作業は、挿し芽・圃場の  
準備・定植を行います。その後、  
ピンチ（摘芯）を行います。



花の生産者  
を常時募集して  
おります。特に暮れ植えキク  
およびスプレーギクは今から定  
植準備に入りますので、興味  
のある方は各支店または  
当農政策課まで  
ご連絡ください。